

外国籍住民「増えた」56%

淑徳大読売 ⑤

共同千葉県調査

第2回「淑徳大・読売新聞

共同千葉県調査」では「住んでいる地域で外国籍の住民が増えている」と思うかを初めて尋ねた。その結果、「あてはまる」「どちらかといえはあてはまる」が半数を超えた。「日本の玄関口」である成田空港を核とした街づくりが進む印旛ゾーンでその実感が強く、共生のための政策を求めていることもわかった。

調査では、居住地域で外国籍住民が増えていると思う人(56.6%)が、そう思わない人(43.4%)を上回った。

外国籍の住民が増えている実感ゾーン別にみると、①印旛(63.0%)②東葛・湾岸(58.1%)③香取・東総(53.7%)④九十九里(49.6%)⑤内房(46.3%)

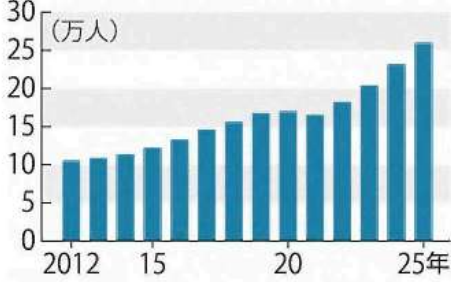
⑥南房総・外房(36.9%)の順だった。「印旛」や「東葛・湾岸」と、「南房総・外房」の間には20%以上の開きがあり、地域差が大きい。

◇

県内在留外国人数は、2025年12月末時点で25万9663人。県によると、県内の総人口の4.1%にあたり、全国平均(3.4%)を上回る。コロナ禍の21年は減少したが、22年から毎年10%台の増加率が続く。

外国人住民数を比較し、増加率をゾーン別に集計した結果、印旛ゾーンが33.5%で1位だった。印旛ゾーンで外国籍の住民が増えている実感が一番強いことと合致する。

県内の在留外国人数の推移



外国籍住民との共生の取り組みが「必要」と回答した人の割合



共生への政策「必要」76.5%

民の増加率は、九十九里(29.0%)、東葛・湾岸(27.8%)、内房(26.2%)、香取・東総(20.7%)、南房総・外房(20.3%)で、いずれも20%を超えている。

◇

政府や自治体の政策として「外国籍の住民との共生のための取り組み」の必要性を尋ねたところ、「必要である」「どちらかという必要である」は76.5%と、約4分の3を占めた。

性別では、女性(79.8%)が男性(73.1%)を上回った。年代別では20歳代(71.6%)、30歳代(72.2%)、40歳代(74.6%)、50歳代(77.4%)、60歳代(83.0%)と、年代が上がるほど必要と回答する割合が高い。

ゾーン別では①印旛(79.7%)②香取・東総(79.0%)③九十九里(78.7%)④内房(77.6%)⑤東葛・湾岸(75.7%)⑥南房総・外房(69.5%)の順だった。外国籍住民の増加を実感している人ほど、共生政策が必要と回答する傾向にあった。(山本功・淑徳大コミュニケーション政策学部教授)

(おわり)